

▲ 研究室紹介

毎回2研究室を順次紹介していきます。

考古第一調査室（平城宮跡発掘調査部）

平城宮跡発掘調査部では、平城宮の発掘調査をすすめるだけでなく、平城京内の宅地や寺院についての発掘調査も行っています。本年度から、考古研究部門3室、建築・庭園研究部門で1室、文献史研究部門1室の5調査室体制になり、それぞれ整理研究を分担しています。各調査室つまり、各専門分野のメンバーがチームを組んで知恵を出し合いながら、議論しながら一つの遺跡の発掘調査をすすめていくことが、創立以来の当研究所の基本的な精神であり、世にいう「学際的」な研究をはるかに先取りして作りあげられた調査研究体制を継承しているところに、奈良文化財研究所の大きな特色があります。これによりこれまでさまざまな成果を積み上げてきていることを忘れてはなりません。

発掘調査では様々な遺物が掘り出されるが、瓦と土器を除いたさまざまな出土品の整理、研究を担当しているのが考古第一調査室です。木を使って作られた実に多様な木製品、砥石、石器、宝玉類などの石製品、銭貨、鏡、帯金具などの銅製品、鎌や鋤や刀の刃あるいは釘、かすがいなどの鉄製品、樹木、草本、種子などの植物遺体、馬、牛などの骨などなど、往時の生活文化のありようを明らかにする鍵となるさまざまなモノを研究対象としています。このような多種多様な遺物を取り扱っていることから、整理、分析をすすめるには幅広い知識が要求されることとなります。現在研究員は室長以下4人のメンバーであり、また遺物の洗浄からはじまり、コンピューターを駆使した膨大な質量のデータ整理にいたるまで、頼もしき4人の女性陣の支援を受けながら調査研究が続けられています。